

茶道と心

京都女子中学校1年（京都府）

金沢 真佳

私が裏千家茶道から茶道は人と人の心を繋ぐということを学びました。

私が裏千家茶道を学び始めたのは、小学6年生の頃、学校での部活でした。初めは興味本位で入部し、少しずつ茶道について学習しました。本格的なおけいこが始まったのは中学校での抹茶部です。ふくさのさばき方やおじぎの仕方、きよめ方などをたくさん教わりました。私は小学生の頃に少し経験があったのですらすらとできました。一人で人より一歩先に進んでいました。ある日、3年生の先輩が2年生の先輩に教えていました。そこで私は初めて気が付きました。一人で先に進むよりも少し遅れてしまっている人に手を差し伸べることが大切と。そして、これは茶道だけではないと。私はその日から、困っている人がいたら積極的に話しかけ、自分のできる限り手伝いました。今までよりも周りを見渡し、困っている人をすぐに助けられるよう努力しました。するとある時、偶然部長の名札が帰り道に落ちていました。急いで届けに行くと、部長は笑顔でありがとうと言ってくれました。それどころか、部長だけでなく、周りにいた人みんなが笑顔になっていました。優しさは周りにいる人みんなの心を温められるものなんだと感じました。

私は茶道を通して優しさの心の大切さを学びました。優しさで人の心と心は繋がります。私はその喜びを発信していけるようになりたいです。私は元々、将来の夢は限られていると思っていました。警察官や弁護士、医者など、それが常識だと思っていました。ただそれを言って周りの人にほめてもらいたいだけでした。でも周りの人からほめてもらうために大人になるのは違うと、優しさから学びました。優しさは自分の地位を上げるためではなく、他の人を喜ばせるためにあります。私はそんな優しさを、今まで注いでくれたたくさんの人に返しながら過ごし、いつか自分の周りの人の笑顔を守れる人間になりたいと思います。